

家族 《母と子》は娘・美音子と孫・ゆみ子を描いたもの。《窓辺の女》は、郷里疎開時・金沢市彦三町居住時に妻・文枝を描いたもの。

No.	作者名	資料番号	資料名	資料名(英訳)	寸法 縦×横mm	制作年代	制作年和暦	技法	材質	所蔵者
1	宮本三郎	12-16	母と子	Mother and Child	450 × 370	1958～59年頃	昭和33～34年頃	コンテ	紙	個人寄託品
2	宮本三郎	1-9	窓辺の女	Woman by the Window	729 × 529	1945～1948年頃	昭和20～23年頃	油彩	キャンバス	宮本三郎美術館

女優など 一時期、宮本は有名・無名女優や歌手をモデルに描いた。《スカーフの女》は無名女優だったが、芯のとった姿が気に入り多数モデルとして起用している。《歌手》のモデルは雪村いづみといわれ、迫力ある表情が印象的である。

No.	作者名	資料番号	資料名	資料名(英訳)	寸法 縦×横mm	制作年代	制作年和暦	技法	材質	所蔵者
3	宮本三郎	1-29	スカーフの女	Woman with Scarf	652 × 533	1959～1961年頃	昭和34～36年頃	油彩	キャンバス	宮本三郎美術館
4	宮本三郎	1-45	歌手	Singer	1620 × 970	1963～1964年	昭和38～39年	油彩	キャンバス	宮本三郎美術館
5	宮本三郎	1-46	座像	Portrait of Sitting Woman	1000 × 730	1963～1965年	昭和38～40年	油彩	キャンバス	宮本三郎美術館

踊子など 踊子を多く描いた時期がある。華やかなステージできらめく姿を見せる一方で、ふとした時に内面を覗かせる二極性に惹かれたという。《手をあげる踊子》は引き締まった顔が印象的である。

No.	作者名	資料番号	資料名	資料名(英訳)	寸法 縦×横mm	制作年代	制作年和暦	技法	材質	所蔵者
6	宮本三郎	1-41	バンドマン 楽屋の男	Band Man at Backstage	910 × 453	1962～1964年頃	昭和37～39年頃	油彩	キャンバス	宮本三郎美術館
7	宮本三郎	1-40	手をあげる踊子	Dancer Raising Her Hands	910 × 452	1962～1964年頃	昭和37～39年頃	油彩	キャンバス	宮本三郎美術館

様々な表情 《頸飾の女》のモデルも多くの作品に起用されている。愛くるしい表情が印象的な作品。《舞妓》は、舞妓の様式美の中にみせる一瞬の表情にひかれて多く描いている。

No.	作者名	資料番号	資料名	資料名(英訳)	寸法 縦×横mm	制作年代	制作年和暦	技法	材質	所蔵者
8	宮本三郎	12-15	頸飾の女	Lady Donning a Necklace	501 × 328	1959年	昭和34年	パステル	紙	個人寄託品
9	宮本三郎	1-47	羽帽子の踊子	Dancer with Feathered Hair Accessory	910 × 612	1964年	昭和39年	油彩	キャンバス	宮本三郎美術館
10	宮本三郎	13-1	舞妓	Maiko (Entertainers who Perform Traditional Japanese Music and Dances)	308 × 464	1952年	昭和27年	水彩	紙	個人寄託品
11	宮本三郎	11-10	姑娘	Young Girl	531 × 453	1937～38年	昭和12～13年	油彩	キャンバス	個人寄託品

肖像

肖像画は、お世話になった方へのお礼として、または依頼を受けて描かれた。奥谷直巳は金沢美術工芸大学(当時:金沢美術工芸専門学校)第一期生で、鴨居玲と並ぶ一番弟子。奥谷自身、卒業後宮本を頼って上京しアーティストとなった。瀬川美津子は、二紀会を通じ宮本に師事。伊東清八は宮本が青年期にお世話になった恩人。清八氏死去の際、家族の依頼で描かれた。清八氏の洋装は宮本の創作である。《少女》は、宮本が2回目の欧州旅行の際、パリで描かれた。《釋妙圓(佐竹千代子氏)肖像》は、宮本上京以前に描かれた可能性のある貴重な逸品。

No.	作者名	資料番号	資料名	資料名(英訳)	寸法 縦×横mm	制作年代	制作年和暦	技法	材質	所蔵者
12	宮本三郎	3-20	奥谷直巳氏肖像	Portrait of Mr. OKUYA Naomi	270 × 230	1951年	昭和26年	水彩	紙	宮本三郎美術館
13	宮本三郎	3-16	瀬川美津子氏肖像	Portrait of Ms. SEGAWA Mitsuko	240 × 205	不詳	不詳	墨	紙	宮本三郎美術館
14	宮本三郎	12-12	少女	Girl	500 × 323	1952年	昭和27年	コンテ・パステル	紙	個人寄託品
15	宮本三郎	2-52	婦人像(加藤葉氏肖像)	Portrait of Woman (Ms.KATO Yo)	310 × 240	1959年	昭和34年	鉛筆	紙	宮本三郎美術館
16	宮本三郎	11-3	伊東清八氏肖像	Portrait of Mr. ITO Seihachi	455 × 328	1926年	大正15年/昭和元年	油彩	板	個人寄託品
17	宮本三郎	12-8	婦人像	Portrait of Woman	495 × 323	1958年	昭和33年	パステル	紙	個人寄託品
18	宮本三郎	12-14	釋妙圓(佐竹千代子氏)肖像	Portrait of SHAKUMYOEN(Ms. SATAKE Chiyoko)	395 × 395	不詳	不詳	鉛筆、墨	紙	個人寄託品

焼物に描かれた顔

おおがみとうえん

焼物は、大甕陶苑(茨城県日立市)からの絵付け指導依頼を受け、数年にわたり制作されたもの。宮本は出来栄えに満足せず、ほとんどを破棄し、現存する焼物は大変貴重な品となる。動物や人を主に描き、デザイン化されたモチーフや油彩での彩色など、油彩と違った様々な試みが行われた。

No.	作者名	資料番号	資料名	資料名(英訳)	寸法 縦×横mm	制作年代	制作年和暦	技法	材質	所蔵者
19	宮本三郎	5-21	陶板「女神」	Ceramic Tile "Goddess"	縦264、横216、高さ11	1955年	昭和30年	焼付け	陶板	宮本三郎美術館
20	宮本三郎	5-22	絵皿「花飾りの娘」	Painted Plate "Flower-adorned Girl"	径256、高さ29	不詳	不詳	油彩	磁器	宮本三郎美術館
21	宮本三郎	5-24	絵皿「葉帽子の女」	Painted Plate "Lady in a Leaf Hat"	径253、高さ55	1954年	昭和29年	染付け	磁器	宮本三郎美術館
22	宮本三郎	5-25	絵皿「横向の女性像」	Painted Plate "Side Portrait of a Lady"	径273、高さ50	1954年	昭和29年	染付け	磁器	宮本三郎美術館
23	宮本三郎	5-27	絵皿「婦人像」	Painted Plate "Portrait of Woman"	径153、高さ30	1954年	昭和29年	染付け	磁器	宮本三郎美術館
24	宮本三郎	5-28	絵皿「婦人像」	Painted Plate "Portrait of Woman"	径154、高さ32	1954年	昭和29年	染付け	磁器	宮本三郎美術館
25	宮本三郎	5-31	掛皿「横向の女性像」	Hanging Plate "Side Portrait of a Lady"	径259、高さ18	1954年	昭和29年	染付け	磁器	宮本三郎美術館
26	宮本三郎	5-33	絵皿「横向の女性像」	Painted Plate "Side Portrait of a Lady"	径266、高さ37	1955年	昭和30年	焼付け	陶器	宮本三郎美術館
27	宮本三郎	5-36	絵皿「少女」	Painted Plate "Girl"	径254、高さ28	不詳	不詳	プリント	磁器	宮本三郎美術館
28	宮本三郎	5-40	絵皿「横向の女性像」	Painted Plate "Side Portrait of a Lady"	径304、高さ38	不詳	不詳	プリント	磁器	宮本三郎美術館